

総務省は5月13日、2017年10月1日時点の日本の総人口の推計（在日外国人を含む）を発表した。前年比22万7000人（0.18%）減の1億2670万6000人で、7年連続の減少となった。

65歳以上の高齢者は同56万1000人（1.62%）増の3510万2000人で、総人口に占める割合は27.7%と過去最高を更新した。

65歳以上の高齢者が3500万人を突破したのは初めてである。このうち75歳以上の後期高齢者は1748万2000人で、総人口の7人に1人（13.8%）の割合となった。

都道府県別にみると、増加したのは東京、埼玉、千葉、神奈川、愛知、福岡、沖縄の7都県にとどまった。

東京の人口増加率は0.73%で全国最高となり、「東京一極集中」が加速している実態も明らかになった。

推計は、2015年の国勢調査を基に、その後の人口移動などを加味して算出したものだ。

(2018.04.13)